

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○4日22日～

先週末はイスラエルがイランに反撃を開始したというニュースで円高、株安の動きが加速しましたが大きな惨事にならなかったことでマーケットは戻して終わっています。

最近のドル／円は急落してもすぐに値を戻す動きが多く、中期的にはまだ円安が続くとの見方多くなっています。

今週は日銀金融政策決定会合があるので、植田・日銀総裁の会見と合わせて、今後の日銀の動きをしっかりと見とおかないといけません。

予想では日銀は夏に利上げで、今回は利上げをしないとなっていますが、まさかの利上げシナリオも想定してリスク管理はしておきたいです。

株価については、流れが下落トレンドに転じてしまったように見えるので、しばらくリスクオフの流れが続くかもしれません。

仮想通貨などの相場も一瞬大きく下げましたが値を戻してきています。

悪材料が出て強い上昇トレンドが続いている場合は、すぐに元のトレンドに戻ってきます。

4月初めから下げている NY ダウが下げ止まるかどうかもしリスク回避的な動きがおさまるかどうかのポイントになりそうです。

テクニカルで見るとNYダウは下落転換しているため、今までと違って悪材料が出る度に下げやすくなります。

日経平均も昨年10月から今年3月まで続いた上昇トレンドが一旦崩れた形になっているので、4月、5月と下落トレンドが続く可能性があるため注意がいります。

今週は米国ではGDPや個人消費支出などの重要指標の発表も多く、ニュースで乱高下するかもしれないのでリスク管理はしっかりしておきたいです。

為替相場においては、ドル／円以外のクロス円もかなりの円安水準になっているため経済界などから「これ以上の円安は困る」という声が出始めています。

日銀や政府がどの程度までの円安を想定しているのかわかりにくい面もあり、155円を突破しても介入がなければ160円まで早いかもしれません。

米国が利下げに対して慎重な姿勢に変わりつつあることもドル高の動きに拍車をかけます。

今の状況では円高になる要因がほとんどないためじわじわと円安が進みそうです。

中東情勢については、まだ完全に落ち着いたわけではないので、今後さらに泥沼化していくことも考えて、連休前ということもあり、あまり大きくポジションは取らない方が安全です。

まずは、週明けのマーケットの動きに注目したいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

<ドル/円>

先週のドル/円は154円台後半まで値を伸ばしました。

154.8円を超えると155円を超える動きになりますが高値買いは避けたいです。

今週は日銀金融政策決定会合がありますが金融政策に変更がなかった場合、ドル/円は介入を警戒しながらもどこまで上昇できるか高値トライの動きが続きそうです。

引き続き、下がってきたところを押し目買いで買っていく戦略がよさそうです。

下値は、153円台後半まで下がってくることがあれば買いが入りやすくなります。

152円台にもサポートが多く、下げ止まれば買いのチャンスと考えて、動きをしっかりと見ながら買っていきたいです。

<気になるクロス円>

クロス円も高値圏での推移が続いているペアが多く、売りはタイミングが難しいので、下げ止まれば買うという戦略を取りたいです。

ユーロやカナダドルは高値更新していきそうな強さです。

ポンドは少し不安定な動きになっているので、無理に売買せずに様子見でもよさそうです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では日銀金融政策決定会合、日銀展望レポート、4月東京都区部消費者物価指数、植田・日銀総裁定例会見などがあります。

米国では4月製造業・サービス部門・総合PMI(速報値)、4月リッチモンド連銀製造業指数、3月新築住宅販売件数、3月耐久財受注、1-3月期GDP(速報値)、前週分新規失業保険申請件数、3月住宅販売保留指数、3月個人消費支出(PCEデフレーター)、4月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで4月製造業・サービス業PMI(速報値)、ドイツで4月IFO企業景況感指数、ユーロ圏でラガルド・ECB総裁発言などがあります。

ほかには、英国で4月製造業・サービス業PMI、オーストラリアで3月消費者物価指数、トルコで政策金利の発表などがあります。